

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	スタディスキルズ		担当者	小林 朋子 遠峯 伸一郎			
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応（要予約）			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成 【概要】大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術―「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」―を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。 【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (小林) 学習技術研究会 『知へのステップ 第5版―大学生からのスタディ・スキルズ』 くろしお出版（遠峯）なし。 (2) 随時紹介						
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：「生徒」から「学生」へ 第 2 回 「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第 3 回 「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に進む 第 4 回 論文ってどんなもの？：基礎編 1―よく使われる語と表現，引用 第 5 回 論文ってどんなもの？：基礎編 2―よく使われる文の形，句読点，表記規則 第 6 回 「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第 7 回 本論の役割：論拠提示，結論提示 第 8 回 結びの役割：総括する，展望提示 第 9 回 図表・資料に関する表現：使用する資料を示す，図表を用いて説明する 第10回 レポート作成の第一歩（テーマ設定から結びに至る展開術の確認） 第11回 レポート作成の実践（その一） 第12回 レポート作成の実践（その二） 第13回 レポート作成の実践（その三） 第14回 発表用スライドの作成：パワーポイントの活用 第15回 プレゼンテーション						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。						
成績評価の方法	レポート（60%），プレゼンテーション（10%），授業時の取り組み（30%）						

授業科目	コミュニケーション概論		担当者	石井 英里子			
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	必修（注）	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 英語で学ぶ異文化コミュニケーション入門，CLIL（Content and Language Integrated Learning） 【概要】 この授業は，領域統合型の言語活動を実践する授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語の説明を聞いて，概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Vincent, P.(2017).<i>Speaking of intercultural communication</i>. Nan'un-do. (2) Stringer M. D. & Cassiday, A. P.(2009). <i>52 activities for improving cross-cultural communication</i>. Intercultural Press.						
授業スケジュール	第 1 回 Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート） 第 2 回 Communication 第 3 回 Culture 第 4 回 Nonverbal Communication 第 5 回 Communicating Clearly 第 6 回 Culture and Values 第 7 回 Culture and Perception 第 8 回 Diversity 第 9 回 Stereotypes 第 10 回 Culture Shock 第 11 回 Culture and Change 第 12 回 Talking about Japan 第 13 回 Becoming a Global Person 第 14 回 Final Presentation (1) 第 15 回 Final Presentation (2)						
授業外学習(予習・復習)	予習（発表準備含む）2 時間以上必要である。						
成績評価の方法	毎回の授業でのプレゼンテーション 30% Final Presentation 30% レポート課題 40%で評価する。						

(注) 教職必修

授業科目	英語学概論		担当者	遠峯 伸一郎				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】英語学諸分野の概説 【概要】英語を分析の題材にして、音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。 【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。							
(1)テキスト	(1) なし。							
(2)参考文献	(2) 大名力 (2014) 『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社、東京。その他随時紹介する。							
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス、英語学とは何か 第 2 回 音声学・音韻論(1) 英語の母音・子音 第 3 回 音声学・音韻論(2) 音素と異音、綴りと発音の対応 第 4 回 音声学・音韻論(3) 英語のアクセントとイントネーション 第 5 回 音声学・音韻論(4) 英語の音変化と音脱落 第 6 回 形態論(1) 派生、屈折 第 7 回 形態論(2) 複合語 第 8 回 形態論(3) 転換、その他の語形成過程 第 9 回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性 第 10 回 統語論(2) 句構造規則 第 11 回 統語論(3) 動詞を中心とする構文 時制、相、態 第 12 回 統語論(4) 冠詞・名詞を中心とする構文 第 13 回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義 第 14 回 意味論(2) 比喩 第 15 回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。							
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)							

(注) 教職必修

授業科目	英文学概論		担当者	轟 義昭			
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	必修（注）	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】「劇」「散文」「小説」の作品を読む。作品に潜む問題点を考える能力（探求能力）を身に付ける。 【概要】「劇」「散文」「小説」のジャンルから作品を取り上げて鑑賞し、作品の問題点を探求します。問題点の探求においては、グループ活動をととして受講生とのディスカッションを取り入れ、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます（受講生は発言が求められるので、前もってテキストをしっかりと読んでおく必要があります）。 【到達目標】イギリス文学の「劇」「散文」「小説」に関する作品を鑑賞して5つの作品を理解する。また、作品に潜む問題点を探求しながら、多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫 (2) 高橋源次『英文学概論』（南雲堂）、高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』（大修館書店）						
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、「英文学の学習とは何か」についての検討 第 2 回 『アーサー王物語』に関する考察（1）：アーサー王伝説の映像鑑賞＋まとめ（理解力の確認） 第 3 回 『アーサー王物語』に関する考察（2）：大衆文化のなかで生き続けるアーサー王伝説 第 4 回 『アーサー王物語』に関する考察（3）：作品にまつわる解説 第 5 回 シェイクスピア『リア王』に関する考察（1）：「シェイクスピアはどういう人物か」の検討、悲劇の原因の探究 第 6 回 シェイクスピア『リア王』に関する考察（2）：道化の役割（卵と畑のイメジャリー） 第 7 回 シェイクスピア『リア王』に関する考察（3）：道化の役割（嵐の場面、途中で退場し出場しなくなる理由） 第 8 回 シェイクスピア『リア王』に関する考察（4）：コーディリアの死の役割と意味 第 9 回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察（1）：映像鑑賞＋まとめ（理解力の確認） 第10回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察（2）：子供が読む作品と大人が読む作品に関する解説 第11回 ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察：作品の魅力と作者の主張 第12回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（1）：ワイラー監督の映画『嵐が丘』（1939）と原作 第13回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（2）：榎太郎演出家による『嵐が丘』（2015）と原作 第14回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察（3）：アダプテーション映画『嵐が丘』の魅力 第15回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	3 作品を読んで授業に臨む（予習）、授業で学習したことをまとめる数回のレポート（復習）						
成績評価の方法	課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み（60%）、筆記試験（40%）						

(注) 教職必修

授業科目	比較文化		担当者	小林 朋子			
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応（要予約）			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択（注）	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。 【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような「関係性＝コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。 【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007 年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010 年）他。（授業で随時紹介します）						
授業スケジュール	第 1 回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か 第 2 回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意義 第 3 回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差し 第 4 回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間 第 5 回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界 第 6 回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー 第 7 回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと 第 8 回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか 第 9 回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史 第 10 回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？ 第 11 回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応 第 12 回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば 第 13 回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは 第 14 回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践 第 15 回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。						
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）						

（注）教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ		担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)		
	[履修年次] 1年		授業外対応	By coming to my office or by email.		
	[学期] 前期	[単位] 2 (注)	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations. 【概要】 Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing. 【到達目標】 In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.					
(1)テキスト	(1) Antonia Clare, JJ Wilson. Speakout pre-intermediate. 2nd edition. Pearson Education					
(2)参考文献	(2)					
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English? 第 2 回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: past simple. 第 3 回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of past simple endings (-ed). Unit 1 review. 第 4 回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/. 第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: present simple and continuous. 第 6 回 Unit 2 Communication skills: intonation: express likes and dislikes. Unit 2 review 第 7 回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job. 第 8 回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary. 第 9 回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review. 第10 回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe. 第11 回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: present continuous and the be going to future. 第12 回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review. 第13 回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English. 第14 回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: past simple and past continuous. 第15 回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5. 第16 回 Unit 5 short presentation. The best day of your life. 第17 回 Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living in the city or in the countryside. 第18 回 Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review. 第19 回 Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games. 第20 回 Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them. 第21 回 Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review. 第22 回 Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band 第23 回 Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie or videogame. 第24 回 Unit 8. Communication skills: polite intonations and contrastive stress. Unit 8 review. 第25 回 Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game. 第26 回 Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals. 第27 回 Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review. 第28 回 Unit 9. Short presentation. The cost of fame. 第29 回 Preparation for the final presentation. 第30 回 Review of the course.					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	In-class presentations (60%); Final presentation (40%)					
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.					

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I		担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)		
	〔履修年次〕 1 年		授業外対応	授業終了後		
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2 (注)	〔必修／選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕	演習	
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i> , Macmillan Education (ISBN: 9781380001115) (2)					
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Activities 第 2 回 Speaking: Talking about Daily Life and Routines 第 3 回 Pronunciation: Linking words 第 4 回 Listening: Listen for Details 第 5 回 Presentation (1) Preparation 第 6 回 Presentation (1) 第 7 回 Speaking: Talking about Likes and Dislikes 第 8 回 Pronunciation: Sentence Stress 第 9 回 Listening: Predicting What Will Be Said 第 10 回 Conversation Activities 第 11 回 Presentation (2) Preparation 第 12 回 Presentation (2) 第 13 回 Speaking: Making Requests / Responding to Requests 第 14 回 Pronunciation: Linking Sounds 第 15 回 Test (1) / Conversation Activities 第 16 回 Speaking: Talking about Hobbies and Interests 第 17 回 Pronunciation: Past Forms 第 18 回 Listening: Listen for Keywords 第 19 回 Presentation (3) Preparation 第 20 回 Presentation (3) 第 21 回 Speaking: Talking about Something That Happened To You 第 22 回 Pronunciation: "Schwa" 第 23 回 Listening: Listen for Specific Information 第 24 回 Conversation Activities 第 25 回 Presentation (4) Preparation 第 26 回 Presentation (4) 第 27 回 Speaking: Talking about Important Celebrations 第 28 回 Pronunciation: Shortening Words 第 29 回 Listening: Listen for Context 第 30 回 Test (2)					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)					

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I		担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ	
	〔履修年次〕 1年		授業外対応	授業終了後	
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2 (注)	〔必修／選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2) プリントを配布する場合もある				
授業スケジュール	第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule) 第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small? 第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion 第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead 第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for? 第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion 第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father 第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships 第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs 第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion 第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie 第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets 第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One 第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion 第 15 回 Unit 20 A Mother's Story, Course summary				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ		担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)	
	[履修年次] 1年		授業外対応	By Coming to my office or by email	
	[学期] 後期	[単位] 2 (注)	[必修/選択] 必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course focused on improving the students' communicative skills in English. 【概要】 The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English. 【到達目標】 The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.				
(1)テキスト	(1) Antonia Clare, JJ Wilson, Speakout. Intermediate. Pearson Education				
(2)参考文献	(2)				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays? 第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on past simple and present perfect 第 3 回 Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of have, had, was (weak forms); intonation: sounding interested. 第 4 回 Unit 1. Presentation: reporting news. 第 5 回 Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (will tense). 第 6 回 Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (going to future); linking in connected speech. 第 7 回 Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points. 第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and used to and simple conditional tense 第 9 回 Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress. 第10 回 Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job. 第11 回 Unit 4. Taking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals 第12 回 Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (would); intonation: giving bad news. 第13 回 Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it. 第14 回 Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on present perfect VS present continuous 第15 回 Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions. 第16 回 Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far. 第17 回 Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice 第18 回 Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect. 第19 回 Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event. 第20 回 Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech. 第21 回 Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes. 第22 回 Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world. 第23 回 Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers. 第24 回 Unit 8. Communication skills: verb phrases: stress pattern: short phrases. 第25 回 Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like. 第26 回 Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives. 第27 回 Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests. 第28 回 Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner. 第29 回 Unit 10 Speaking: talking about communities. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words. 第30 回 Review of the course				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).				
実務経験について	I have been teaching this class since 2019				

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーション II		担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)	
	[履修年次] 1 年		授業外対応	授業終了後	
	[学期] 後期	[単位] 2 (注)	[必修/選択] 必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001115) (2)				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Activities 第 2 回 Speaking: Talking about Food & Drink Preferences 第 3 回 Pronunciation: Stress to Contrast 第 4 回 Listening: Identifying Context 第 5 回 Presentation (1) Preparation 第 6 回 Presentation (1) 第 7 回 Speaking: Talking about Rules in Your Life 第 8 回 Pronunciation: Linking /w/ and /j/ 第 9 回 Listening: Listen for the "Gist" 第 10 回 Conversation Activities 第 11 回 Presentation (2) Preparation 第 12 回 Presentation (2) 第 13 回 Speaking: Talking about Things You've Done 第 14 回 Pronunciation: Shortened Words 第 15 回 Test (1) / Conversation Activities 第 16 回 Speaking: Talking about Health & Staying Healthy 第 17 回 Pronunciation: Intonation 第 18 回 Listening: Listening for Opinion 第 19 回 Presentation (3) Preparation 第 20 回 Presentation (3) 第 21 回 Speaking: Making Comparisons / Expressing Preferences 第 22 回 Pronunciation: Word Stress 第 23 回 Listening: Note-Taking 第 24 回 Conversation Activities 第 25 回 Presentation (4) Preparation 第 26 回 Presentation (4) 第 27 回 Speaking: Talking about Technology 第 28 回 Pronunciation: /j/ and /h/ 第 29 回 Listening: Listen for Detail 第 30 回 Test (2)				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)				

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーション II		担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ	
	〔履修年次〕 1年		授業外対応	授業終了後	
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2 (注)	〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】 グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 【到達目標】 The main goal is to help the students use English with more skill and confidence. テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2) プリントを配布する場合もある				
授業スケジュール	第 1 回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule) 第 2 回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small? 第 3 回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion 第 4 回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead 第 5 回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for? 第 6 回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion 第 7 回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father 第 8 回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships 第 9 回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs 第 10 回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion 第 11 回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie 第 12 回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets 第 13 回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One 第 14 回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion 第 15 回 Unit 20 A Mother's Story, Course summary				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ		担当者	Jorge García Arroyo(ガルシア・アロヨ ホルヘ)	
	〔履修年次〕 2年		授業外対応	By coming to my office or by email	
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches.				
	【概要】 Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.				
	【到達目標】 In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson. <i>Speakout intermediate plus</i> . 2 nd edition. Pearson Education. (2)				
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English? 第 2 回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions. 第 3 回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses; Verb + preposition 第 4 回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know 第 5 回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative <i>have</i> . 第 6 回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects; stress: causative <i>have</i> .; connected speech: linking 第 7 回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any). 第 8 回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures. 第 9 回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate. 第 10 回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life. 第 11 回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and present perfect simple and continuous. 第 12 回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic). 第 13 回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks. 第 14 回 Review of the course. 第 15 回 Preparation for the final presentation.				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class presentations (60%) Final presentation (40%)				
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.				

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ		担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	授業終了後				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i> , Macmillan Education (ISBN: 9781380001139) (2)							
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things. 第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details. 第 4 回 Presentation (1) Preparation 第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice 第 6 回 Speaking: Talking about Experiences 第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion. / Listening: News Reports. 第 8 回 Test (1) / Conversation Practice 第 9 回 Presentation (2) Preparation 第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice 第 11 回 Speaking: Talking about Opinions. 第 12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic 第 13 回 Presentation (3) Preparation 第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice 第 15 回 Test (2) / Conversation Practice							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)							

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ		担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	授業終了後				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations. 【概要】 Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns 【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Inspire 2 by Hartmannn, Douglas and Boon Cengage learning (2)							
授業スケジュール	第 1 回 Introduction of key topics from the first half of the textbook 第 2 回 Festivals 第 3 回 Food 第 4 回 Cities 第 5 回 Jobs (Part-time) 第 6 回 Jobs (Unusual) 第 7 回 Review Quiz of first half of semester 第 8 回 Music 第 9 回 Traditional Instruments 第 10 回 Travel (Abroad) 第 11 回 Travel (Domestic) 第 12 回 Life Dreams and Hopes 第 13 回 Happiness 第 14 回 Life Goals 第 15 回 Pair work practice on key topic 第 16 回 Final Quiz							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%							

授業科目	オーラルコミュニケーション IV	担当者	ジェイムズ・マレー (James Murray)	
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139) (2)			
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Conversation Practice 第 2 回 Speaking: Talking about Possibilities 第 3 回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion 第 4 回 Presentation (1) Preparation 第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice 第 6 回 Speaking: Making Deductions 第 7 回 Pronunciation: Reduced Forms / Listening: Inferring Meaning 第 8 回 Test (1) / Conversation Practice 第 9 回 Presentation (2) Preparation 第 10 回 Presentation (2) / Conversation Practice 第 11 回 Speaking: Talking about Key Events from the Past 第 12 回 Pronunciation: Stress and Rhythm / Listening: Listen for Specific Information 第 13 回 Presentation (3) Preparation 第 14 回 Presentation (3) / Conversation Practice 第 15 回 Test (2) / Conversation Practice			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)			

授業科目	オーラルコミュニケーションIV	担当者	アンドルー・ダニエルズ Andrew Daniels	
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	
		[必修/選択]	選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English. 【概要】 Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class. 【到達目標】 The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) No Text. Materials prepared by teacher (2)			
授業スケジュール	第 1 回 Introduction of Course and Goals for this semester Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第 2 回 Generation Gaps 第 3 回 Family Issues 第 4 回 Global Youth Culture 第 5 回 World Music and expressing opinions about it 第 6 回 Fashion 第 7 回 Review Quiz 第 8 回 Health 第 9 回 Diets 第 10 回 Pressures of the Mass Media 第 11 回 Travel Plans 第 12 回 Plans for the Future 第 13 回 Life in the Future 第 14 回 Generational Choices 第 15 回 Pair work presentation practice 第 16 回 Final Quiz			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%			

授業科目	英語表現法 I	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences 第 4 回 Unit 2: Organizing Ideas 第 5 回 Unit 2: Inference Sentences 第 6 回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 7 回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 8 回 Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 10 回 Unit 5: Topic Sentences 第 11 回 Unit 5: Organizing Information 第 12 回 Unit 6: Plans and Instructions 第 13 回 Unit 6: Using "so", "that", and "to" 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法 I	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class assignments in addition to in class compositions. 【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Class Orientation 第 2 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 9 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10 回 Unit 3, Example paragraph 第 11 回 Unit 3, Example paragraph 第 12 回 Unit 3, Example paragraph 第 13 回 Unit 3, Example paragraph 第 14 回 Example paragraph in-class assignment 1st draft 第 15 回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons 第 3 回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 4 回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 5 回 Unit 8: Using Pronouns 第 6 回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions 第 7 回 Unit 9: Supporting Sentences 第 8 回 Unit 10: Using Examples 第 9 回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __, I would __." 第 10 回 Unit 11: Attention-Getters 第 11 回 Unit 11: Using Persuasive Language 第 12 回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions 第 13 回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice 第 14 回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions. 【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 4, Process paragraph 第 2 回 Unit 4, Process paragraph 第 3 回 Unit 4, Process paragraph 第 4 回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 5 回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 6 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 10 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 11 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 14 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 15 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4 回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5 回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6 回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7 回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8 回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10 回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11 回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12 回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13 回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	パトリック・ゴーラム Patrick Gorham
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a course designed for students to expand on their writing from Eigo Hyogen Ho II. Students will concentrate on building vocabulary and developing reading and writing skills needed in academic contexts. The reading and writing are similar to what students will encounter on TOEFL or IELTS exams. Sample essays will help students develop their own written essays. 【概要】 Students will have regular homework assignments 【到達目標】 Students will learn to grasp academic English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Academic Reading and Writing 2, Publisher ABAX ELT PUBLISHERS, Authors: Alistair Graham-Marr & Mark Rossiter (2)		
授業スケジュール	第 1 回 5 Paragraph Essay 第 2 回 Planning Your Writing 第 3 回 Planning Your Paragraph 第 4 回 Main Ideas and Details 第 5 回 Introductory Paragraph 第 6 回 Paragraph Styles: Details and Main Ideas 第 7 回 Writing Conclusions 第 8 回 Introduction, Main Ideas & Conclusions 第 9 回 Plan Your Paragraph 第 10 回 Tradition 第 11 回 Plan Your Paragraph 第 12 回 To be determined 第 13 回 To be determined 第 14 回 To be determined 第 15 回 To be determined		
授業外学習(予習・復習)	Students will complete regular exercises at home to discuss in the following lesson.		
成績評価の方法	Class Participation, Attendance, Completion of Assignments		

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅰ		担当者	土持 かおり				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、視聴覚教材を利用して標準的なナチュラルな英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解し知識を得ることです。 【概要】ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材を通して理解するとともに、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高めます。 さらに、毎回、シャドーイング（聞き取った音を再現する口頭練習）を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」を高めていきます。 【到達目標】・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 ・英語の音声的特徴に慣れるとともに、パッセージを瞬時に聞き取り理解することができる。 ・オーストラリアの日常生活・社会について理解し知識を得る。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Kumiko T. Sato 他著 <i>Australia, Here We Come!</i> 出版社：Asahi Press						
	(2)	なし						
授業スケジュール	第 1 回	授業ガイダンス： 効果的なリスニング学習とは？ / 授業内容と進め方について						
	第 2 回	Unit 1: Hello, Sydney, Australia！ / 小テスト／シャドーイング演習						
	第 3 回	Unit 2: Street Life／小テスト／シャドーイング演習						
	第 4 回	Unit 3: Public Transport – Commuting／小テスト／シャドーイング演習						
	第 5 回	Unit 4: University Life – The University of Sydney (1) / 小テスト／シャドーイング演習						
	第 6 回	Unit 4: University Life – The University of Sydney (2) / シャドーイング演習						
	第 7 回	Unit 5: Australian Home／小テスト／シャドーイング演習						
	第 8 回	Unit 6: Supermarket – Coles／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 9 回	Unit 7: Daily Life／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 10 回	Unit 8: Taronga Zoo – Australian Animals／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 11 回	Unit 9: Leisure Time at the Sea／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 12 回	Unit 10: Education Programmes in Taronga Zoo／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 13 回	Unit 11: Leisure Time at the Park／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 14 回	Unit 12: Australian Family／語彙テスト／シャドーイング演習						
	第 15 回	テキストのレビュー・アクティビティ						
授業外学習(予習・復習)	毎回のテキストの予習（語彙等）、毎回の小テストのための学習							
成績評価の方法	授業でのワークシート（20％）＋ 復習のための小テスト（30％）＋ 定期試験（50％）							

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅱ		担当者	石井 英里子				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修／選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)							
	【概要】 コミュニケーション概論で学習したことをさらに深めるため、テーマに関連する様々なトピックを扱いながら、読むことと書くことを中心に、多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)英語で書かれた資料から、必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで、その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書いたり、口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	McConachy, T. et al. (2017). <i>Intercultural communication for English language learners in Japan</i> . Nan'un-do.						
	(2)	授業で紹介する						
授業スケジュール	第 1 回	Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)						
	第 2 回	Intercultural Communication in Today's World						
	第 3 回	English for Intercultural Communication						
	第 4 回	Important Features of Human Communication						
	第 5 回	The Concept of Culture						
	第 6 回	Language and Thought						
	第 7 回	Communication Styles						
	第 8 回	Human Psychology and Communication						
	第 9 回	Speech Acts across Cultures						
	第 10 回	Stereotypes and Intercultural Communication						
	第 11 回	Cultural Accommodation in Intercultural Communication						
	第 12 回	Intercultural Communication in Higher Education						
	第 13 回	Study Abroad and Intercultural Adaptation						
	第 14 回	Intercultural Competence for the Future						
	第 15 回	Final Presentation						
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。							
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% 期末レポート 40% Extensive Reading 30%で評価する。							

(注) 教職必修

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
		〔必修／選択〕 必修	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning) 【概要】 コミュニケーション概論, 英語コミュニケーション演習Ⅱで学習したことをさらに深めるため, テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布, 初回で指示する。 (2) Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). <i>Intercultural interactions: A practical guide</i>. Sage Publications.		
授業スケジュール	第 1 回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート) 第 2 回 演習 1 第 3 回 演習 2 第 4 回 演習 3 第 5 回 演習 4 第 6 回 演習 5 第 7 回 演習 6 第 8 回 演習 7 第 9 回 演習 8 第 10 回 演習 9 第 11 回 演習 10 第 12 回 演習 11 第 13 回 演習 12 第 14 回 Final Presentation (1) 第 15 回 Final Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	予習 (発表準備含む) 2 時間以上必要である。		
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% Final Presentation 30% 期末レポート 40%で評価する。		

授業科目	通訳入門Ⅰ	担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	オフィスアワー
		〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 通訳訓練法の習得 (トピック: 留学, 日本文化, ジェンダー, 環境と SDG s, ビジネス) 【概要】本授業では, 集中力や記憶力の強化, 情報の取りこぼしを防ぐためのノートテイキングの練習をベースに, 様々なテーマやシチュエーションで, 英語から日本語, 日本語から英語へ, 双方向の通訳スキルを習得します。 【到達目標】通訳訓練法 (Lagging, Quick Response, Shadowing, Retention, Consecutive Interpreting(英→日), Consecutive Interpreting(日→英), Sight Translation(日→英)) を理解し実践することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 水野真木子 & Ashuroba, U. (2022) <i>Interpreting Skills for the World Beyond Borders</i>, Shohakusha (2) 適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス, 通訳訓練法の紹介 第 2 回 Study Abroad (1) 第 3 回 Study Abroad (2) 第 4 回 Conversation: [Culture] At Kimono Gallery (1) 第 5 回 Conversation: [Culture] At Kimono Gallery (2) 第 6 回 Gender Issue (1) 第 7 回 Gender Issue (2) 第 8 回 Environment and SDGs (1) 第 9 回 Environment and SDGs (2) 第 10 回 Conversation: [Business] At a cutlery party (1) 第 11 回 Conversation: [Business] At a cutlery party (2) 第 12 回 Religion (1) 第 13 回 Religion (2) 第 14 回 通訳プレゼンテーション 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 1 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み(40%), ブックレポート(30%), 通訳プレゼンテーション(30%)で評価する。		

授業科目	通訳入門Ⅱ		担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	オフィスアワー
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修／選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 通訳訓練法の実践（トピック：ユニバーサルデザイン、食と料理、スポーツ、テクノロジー、歴史、健康） 【概要】本授業では、集中力や記憶力の強化、情報の取りこぼしを防ぐためのノートテイキングの練習をベースに、様々なテーマやシチュエーションで、英語から日本語、日本語から英語へ、双方向の通訳スキルを習得します。 【到達目標】通訳訓練法（Lagging, Quick Response, Shadowing, Retention, Consecutive Interpreting(英→日), Consecutive Interpreting(日→英), Sight Translation(日→英)）を理解し実践することができる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 水野真木子 & Ashuroba, U. (2022) <i>Interpreting Skills for the World Beyond Borders</i>, Shohakusha (2) 適宜紹介する			
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス、夏休みの思い出シェアリング（画像や動画をスライドに貼って持参してください） 第 2 回 Universal Design (1) 第 3 回 Universal Design (2) 第 4 回 Food and Cooking (1) 第 5 回 Food and Cooking (2) 第 6 回 Conversation: [Sports] Interview with a figure skater (1) 第 7 回 Conversation: [Sports] Interview with a figure skater (2) 第 8 回 AI and Technology (1) 第 9 回 AI and Technology (2) 第 10 回 History (1) 第 11 回 History (2) 第 12 回 Conversation: [Healthcare] At a medical examination (1) 第 13 回 Conversation: [Healthcare] At a medical examination (2) 第 14 回 通訳プレゼンテーション 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 1 時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み(40%)、ブックレポート(30%)、通訳プレゼンテーション(30%)で評価する。			

授業科目	英文法		担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位
			〔必修／選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現） 【概要】本授業は名詞・冠詞と複文に焦点を当てる。具体的には、準動詞（不定詞と動名詞）、法、関係節、名詞・冠詞について学ぶ。 【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子 (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編 第 4 版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。 (2) 久野暲・高見健一, 『謎解きの英文法』シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。			
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 準動詞 (1) 不定詞 第 3 回 準動詞 (2) 動名詞 第 4 回 準動詞 (3) 不定詞, 動名詞, 定形節, 名詞句 第 5 回 直説法と仮定法 第 6 回 仮定法過去, 仮定法過去完了とそれらに関連する表現 第 7 回 仮定法と助動詞 第 8 回 名詞における可算不可算の区別 第 9 回 不定冠詞と数量詞 some, any の用法 第 10 回 定冠詞の用法 第 11 回 関係節の先行詞と不定冠詞と定冠詞 第 12 回 制限関係節と非制限関係節の接点 第 13 回 総称 第 14 回 名詞と冠詞問題演習 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (50%) + 授業内活動への積極的な参加 (10%)			

授業科目	英語史		担当者	遠峯 伸一郎			
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	講義前後に適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位	〔必修／選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言語の通時的変化）の観点から学ぶ。 【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。 【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし。 (2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店、東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部、東京。井口篤、寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会、東京。ブラッグ、メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社、東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) The Adventure of English. (DVD)						
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 英語の始まり 第 3 回 インド・ヨーロッパ祖語 第 4 回 英語のアルファベット 第 5 回 古英語の特徴 第 6 回 ヴァイキングの侵攻と英語 第 7 回 ノルマン征服と中英語 第 8 回 初期近代英語 ルネッサンス、シェイクスピアと英語 第 9 回 中英語・初期近代英語を読む 第 10 回 海外に広がった英語 アメリカ英語 第 11 回 アジア諸国における英語 第 12 回 ビジネスとクレオール 第 13 回 現代イギリス英語に見られる変化 第 14 回 現代アメリカ英語に見られる変化 第 15 回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。						
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)						

(注) 教職必修

授業科目	英語音声学		担当者	遠峯 伸一郎	
	〔履修年次〕 1 年		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2 単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】英語の音声の仕組み 【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素（ストレス、ピッチ、連接）を概略する。授業では、講義に加えて CALL 機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。 【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂、東京。 (2) キャットフォード, J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子（訳）(2006) 『実践音声学入門』大修館書店、東京。 今井, ジュミック (2012) 『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社、東京。その他随時紹介する。				
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 分節音(1) 第 3 回 分節音(2) 第 4 回 分節音(3) 第 5 回 分節音(4) 第 6 回 分節音(5) 第 7 回 アクセント(1) 第 8 回 アクセント(2) 第 9 回 音変化(1) 第 10 回 音変化(2) 第 11 回 音変化(3) 第 12 回 イントネーション(1) 第 13 回 イントネーション(2) 第 14 回 音と綴りの関係 第 15 回 まとめ				
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。				
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (実技課題を含む) (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)				

授業科目	講読演習Ⅰ	担当者	遠峯 伸一郎	
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1 単位	〔必修／選択〕 選択必修	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】英語学の文献講読。英語学にはさまざまな分野があるが本授業では特に「社会言語学」を取り上げる。社会言語学は社会的要因（年齢、性差、地域、など）が言語にどのような影響を及ぼすかを研究する。 【概要】社会言語学の代表的研究者の1人であるデボラ・タネンによる著書を精読することを通して、男女の性差がことばに与える影響について学ぶ。 【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第2章以降を独力で読めるようになる。フレーム、メタメッセージなど基礎的な概念を理解し、具体的な言語分析に応用できるようになる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Tannen, Deborah (1990) <i>You Just Don't Understand</i> , William Morrow, New York. (2) 随時紹介する。			
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Different Words, Different Worlds (1) 第 3 回 Different Words, Different Worlds (2) 第 4 回 Intimacy and Independence (1) 第 5 回 Intimacy and Independence (2) 第 6 回 Asymmetries (1) 第 7 回 Asymmetries (2) 第 8 回 The Mixed Metamessages of help 第 9 回 The Modern Face of Chivalry 第 10 回 The Protective Frame 第 11 回 Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1) 第 12 回 It Begins at the Beginning (2) 第 13 回 It Begins at the Beginning (3) 第 14 回 The Key is Understanding 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (30%) + 試験 (70%)			

授業科目	基礎演習Ⅰ		担当者	遠峯 伸一郎				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1 単位	〔必修／選択〕	選択必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】推理小説を英語で読みながら、高校までの英語学習では扱われない構文を学ぶ。 【概要】アガサ・クリスティの <i>Murder on the Orient Express</i> を読みながら、高校まででは扱われない倒置や、目的語前置などの構文を学ぶ。 【到達目標】文の単位を越えた情報の新旧、重要性によって決定される語順配置を見せる構文について理解を深める。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Christie, Agatha (1934, 2017) <i>Murder on the Orient Express</i> , HarperCollins, London.						
	(2)	随時紹介する。						
授業スケジュール	第 1 回	ガイダンス						
	第 2 回	文の文法と談話の文法						
	第 3 回	ガイダンス、あらすじの確認						
	第 4 回	登場人物の整理, Part 1, 第 1 章を読む						
	第 5 回	Part 1, 第 2 章を読む						
	第 6 回	Part 1, 第 3 章を読む						
	第 7 回	Part 1, 第 4 章を読む						
	第 8 回	Part 1, 第 5 章を読む						
	第 9 回	Part 1, 第 6 章を読む						
	第 10 回	Part 1, 第 7 章を読む						
	第 11 回	Part 1, 第 8 章を読む						
	第 12 回	Part 1, 第 1 章から第 8 章のまとめ						
	第 13 回	学生によるプレゼンテーション						
	第 14 回	学生によるプレゼンテーション						
	第 15 回	まとめ						
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + プレゼンテーションとレポート (40%)							

授業科目	基礎演習Ⅰ	担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
		〔必修／選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション、英語教育学、ワークショップのデザインと実践 【概要】 グループごとに異文化コミュニケーション、英語教育学に関する文献を読み、内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス 第 2 回 グループ発表 1 の準備 1 第 3 回 グループ発表 1 の準備 2 第 4 回 グループ発表 1 第 5 回 グループ発表 2 の準備 1 第 6 回 グループ発表 2 の準備 2 第 7 回 グループ発表 2 第 8 回 グループ発表 3 の準備 1 第 9 回 グループ発表 3 の準備 2 第 10 回 グループ発表 3 第 11 回 グループ発表 4 の準備 1 第 12 回 グループ発表 4 の準備 2 第 13 回 グループ発表 4 第 14 回 研究テーマと研究構想についての報告 1 第 15 回 研究テーマと研究構想についての報告 2		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	グループ発表 30% グループ調査報告 30% レポート 40% で評価する。		

授業科目	英語学演習	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1 単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		〔必修／選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】推理小説を英語で読みながら、高校までの英語学習では扱われない構文を学ぶ。卒業研究のテーマを絞る。 【概要】「基礎演習Ⅰ」に引き続き、アガサ・クリスティの <i>Murder on the Orient Express</i> を読む。並行して、プレゼンテーションと個別指導を通して卒業研究のテーマを決定する。 【到達目標】文の単位を越えた情報の新旧、重要性によって決定される語順配置を見せる構文について理解を深める。卒業研究のテーマを決定する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Christie, Agatha (1934, 2017) <i>Murder on the Orient Express</i>, HarperCollins, London. (2) 随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 Part 2, 第 1 章を読む 第 3 回 Part 2, 第 2 章を読む 第 4 回 Part 2, 第 3 章を読む 第 5 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (1) 第 6 回 Part 2, 第 4 章を読む 第 7 回 Part 2, 第 5 章を読む 第 8 回 卒業研究のテーマについての個別指導 (1) 第 9 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (2) 第 10 回 卒業研究のテーマについての個別指導 (2) 第 11 回 Part 2, 第 6 章を読む 第 12 回 Part 2, 第 7 章を読む 第 13 回 Part 2, 第 8 章を読む 第 14 回 Part 2, 第 9 章を読む 第 15 回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (3)		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間、復習 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポートとプレゼンテーション (30%)		

授業科目	英語学演習	担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom
		〔必修/選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究する。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 浦野研・亘陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹（2016）『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』研究社 佐野正之（2000）『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』大修館書店		
授業スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス、研究テーマと研究構想についての報告 第 2 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1 第 3 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2 第 4 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3 第 5 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4 第 6 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5 第 7 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6 第 8 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7 第 9 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8 第 10 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 9 第 11 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 10 第 12 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 11 第 13 回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 12 第 14 回 中間発表 1 第 15 回 中間発表 2		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	報告とディスカッション 30% 中間発表 30% レポート 40%で評価する。		

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
		〔必修/選択〕	必修 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。 【概要】 まず、文学史のテキストに潜んでいる問題点を考えます。次に、18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて、「小説」の流れを概観し、18 世紀の特徴、19 世紀（ビクトリア朝期）の特徴、20 世紀の特徴を理解してもらいます。また、受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために、指定した映像作品を鑑賞してもらい、「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課します。 【到達目標】 18 世紀の小説の特徴、19 世紀の小説の特徴、20 世紀の小説の特徴を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂 (2) サブテキストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（講義方式の説明、文学史のテキストに潜む問題点の探求） 第 2 回 18 世紀の小説（1）：18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J. バニヤン、D. デフォー、J. スイフト、S. リチャードソン） 第 3 回 18 世紀の小説（2）：18 世紀の小説における H. フィールドイング、L. スターン、T. G. スモレットの役割 第 4 回 18 世紀の小説（3）：18 世紀後半のゴシック小説（H. ウォルポール） 第 5 回 19 世紀初頭の小説：J. オースティンの小説 第 6 回 18 世紀～19 世紀初頭の小説に関する小テスト、19 世紀の小説（1）：19 世紀（ヴィクトリア朝期）小説の特徴 第 7 回 19 世紀の小説（2）：C. ディケンズの小説 第 8 回 19 世紀の小説（3）：W. M. サッカレーの小説、ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説 第 9 回 19 世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響、19 世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T. ハーディ） 第 10 回 19 世紀（ビクトリア朝期）の小説に関する小テスト、20 世紀の小説（1）：20 世紀小説の特徴 第 11 回 20 世紀の小説（2）：D. H. ロレンスの小説 第 12 回 20 世紀の小説（3）：V. ウルフの小説 第 13 回 20 世紀の小説（4）：H. G. ウェルズの小説 第 14 回 20 世紀の小説（5）：H. ジェームズズの小説、E. M. フォスターの小説 第 15 回 20 世紀の小説に関する小テスト、まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査 3 回（プリント）、復習は小テスト（3 回）の準備		
成績評価の方法	筆記試験（50%）、講義中の小テスト／授業への取り組み（40%）、課題レポート分(10%)		

授業科目	米文学史	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応（要予約）
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流 【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。 *授業には必ず英和辞典を持参すること。 【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。		
1)テキスト (2)参考文献	(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、2004年） (2) 授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクションーネイティブ・アメリカンの詩 第 2 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（1） 第 3 回 信仰とアメリカーピューリタン文学と理性の文学（2） 第 4 回 「驚異」の世界ーロマン主義の勃興 第 5 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（1） 第 6 回 アメリカン・ルネッサンスーロマン主義の隆盛（2） 第 7 回 「金めっき時代」ーリアリズムの勃興 第 8 回 危機と革新ーリアリズムの展開 第 9 回 繁栄と解放の文学ーロスト・ジェネレーション 第10回 世界へ向けてーモダニズムの文学 第11回 戦後文学の出発ー第2次世界大戦と冷戦 第12回 自我をつくろうー人種系文学（1） 第13回 自我をつくろうー人種系文学（2） 第14回 自己の探求ーポスト・モダニズムの文学 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）		

授業科目	比較文学	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応（要予約）
テーマ及び概要	【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学 【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。 【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) Toni Morrison <i>Beloved</i> Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション：対話的文学論とは 第 2 回 <i>Beloved</i> と神話批評 第 3 回 <i>Beloved</i> とウィネバゴ・インディアン神話（1） 第 4 回 <i>Beloved</i> とウィネバゴ・インディアン神話（2） 第 5 回 <i>Beloved</i> とヨルバ族神話 第 6 回 大衆文化の中のトリックスター 第 7 回 名称付与とは何か 第 8 回 <i>Beloved</i> と「千と千尋の神隠し」（1） 第 9 回 <i>Beloved</i> と「千と千尋の神隠し」（2） 第10回 <i>Beloved</i> と「千と千尋の神隠し」（3） 第11回 言語の表象不可能性 第12回 <i>Beloved</i> と井上ひさし『父と暮せば』（1） 第13回 <i>Beloved</i> と井上ひさし『父と暮せば』（2） 第14回 <i>Beloved</i> と井上ひさし『父と暮せば』（3） 第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（10%）、テーマごとに提出する小レポート（30%）、最終レポート（60%）		

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	小林 潤司	
	〔履修年次〕 1,2 年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。	
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1 単位	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピアとその時代 【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは、この都市の膨張に伴って生じた、娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは、同時に、当時のロンドン市民の好尚に合う新しい芸能を担った、興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では、この「＜時代の落とし子＞にして＜世界の文豪＞」を準備した演劇的風土を、周辺の劇作家群像をも視野に入れながら、できる限り立体的に論じてみたい。 【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の概要を説明することができる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (1) 柴田稔彦（編）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫） (2) (2) 河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂） G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）			
授業スケジュール	第 1 回 世界の拡大 第 2 回 ルネサンス観の多様性 第 3 回 人文主義 第 4 回 宗教改革と国民国家の形成 第 5 回 ストラットフォードからロンドンへ 第 6 回 歴史劇 第 7 回 初期・中期の喜劇 第 8 回 初期の悲劇 第 9 回 『ハムレット』と『オセロー』 第 10 回 『リア王』と『マクベス』 第 11 回 後期の喜劇 第 12 回 物語詩の概説 第 13 回 『ヴィーナスとアドーニス』 第 14 回 『ルークリース凌辱』 第 15 回 まとめとふりかえり			
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。			
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30％ 学期末試験 70％			

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	小林 潤司	
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	質問等には講義終了時に対応する。	
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピア『ソネット集』選訳 【概要】時と永遠、無常と不易、愛欲と憎悪などをめぐる形而上学的な瞑想の断章をはさみながら展開していく『ソネット集』の「物語」が、詩人の実人生における経験を何らかの形で反映しているのかどうかはわからない。しかし、この一巻の詩集の中に生き生きと再現された思索と情感の運動の軌跡をたどる時、私たちはその向こう側に、驚くほどに自由で巨大な精神の存在を察知し肅然とせざるを得ないのである。『ソネット集』を読むことは、この巨大な精神との格闘に他ならない。それは格闘である以上、無傷で戻ってくることはできないことを覚悟して掛からねばならないであろう。 【到達目標】シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の概要を説明することができる。『ソネット集』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。任意のソネットを、詩集全体の中での位置づけ、当時の社会背景とのかかわり、語彙、表現、修辞をはじめとする表現形式などの複数の観点から分析、評釈することができる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (1) 柴田稔彦（編）『対訳シェイクスピア詩集』（岩波文庫） (2) (2) 河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂） G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社）			
授業スケジュール	第 1 回 ソネット連作詩集の世界（シドニー、スペンサー、シェイクスピア） 第 2 回 シェイクスピア式ソネットの詩形と技巧 第 3 回 『ソネット集』の成立と出版 第 4 回 ソネット 1 番 第 5 回 ソネット 2 番 第 6 回 ソネット 9 番 第 7 回 ソネット 12 番 第 8 回 ソネット 17 番 第 9 回 ソネット 18 番 第 10 回 ソネット 30 番 第 11 回 ソネット 55 番 第 12 回 ソネット 66 番 第 13 回 ソネット 71 番 第 14 回 ソネット 73 番 第 15 回 まとめとふりかえり			
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。			
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言） 30％ 学期末試験 70％			

授業科目	英米文学講読Ⅲ		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1, 2 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読みます。授業は速読形式で進め、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していきます。作品を読むには記憶力が大事です。物語内容の理解度を確認するために、小テストを6回実施します。また作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。 【到達目標】文学作品を速読で読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (ペンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス (2)			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞 第 2 回 映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞 (続き) と解説 第 3 回 テキスト第 1 章～第 3 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 4 回 第 1 章～第 3 章の小テスト (1 回目) およびその解説。第 4 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 5 回 第 5 章～第 6 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 6 回 第 4 章～第 6 章の小テスト (2 回目) およびその解説。第 7 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 7 回 第 8 章～第 9 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 8 回 第 7 章～第 9 章の小テスト (3 回目) およびその解説。第 10 章～第 11 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 9 回 第 12 章～第 13 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 10 回 第 10 章～第 13 章の小テスト (4 回目) およびその解説。第 14 章～第 15 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 11 回 第 16 章～第 17 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 12 回 第 14 章～第 17 章の小テスト (5 回目) およびその解説。第 18 章～第 19 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 13 回 第 20 章～第 21 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 14 回 第 18 章～第 21 章の小テスト (6 回目) およびその解説 第 15 回 まとめ『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったかを考える)			
授業外学習 (予習・復習)	予習は担当者が用意したプリント (宿題), 復習は小テスト (6 回) の準備			
成績評価の方法	レポート (40%), 予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (30%), 小テスト (30%)			

授業科目	講読演習Ⅱ		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して、J. オースティンの『分別と多感』を読みます。授業はテキストを読んで日本語に訳す精読方式です。また章ごとの訳だけでなく、担当者が準備したプリントに基づいて章ごとの内容と問題点も確認します。作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。最後に、学習からまとめた成果をパワーポで発表 (プレゼン) してもらい、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます。 (グループ活動をととした授業とする。) 【到達目標】文学作品を正確に読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。プレゼンを通して自らの発信力を磨くと同時に、他の学生の発表を聴いて意見を述べる力を養う。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英潮社フェニックス) (2)			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明: グループ活動, <u>代表</u>は指定された期日までに章の訳をとりまとめる), 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 第 2 回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 (続き) と解説 第 3 回 グループ活動 1: 英文テキストの第 1 章のプリントの検討と発表 第 4 回 第 1 章と第 2 章の訳の訂正 第 5 回 グループ活動 2: 第 3 章のプリントの検討と発表 第 6 回 第 3 章の訳の訂正 第 7 回 グループ活動 3: 第 4 章のプリントの検討と発表 第 8 回 第 4 章の訳の訂正 第 9 回 グループ活動 4: 第 5 章のプリントの検討と発表 第 10 回 第 5 章の訳の訂正 第 11 回 グループ活動 5: 第 6 章のプリントの検討と発表 第 12 回 第 6 章の訳の訂正 第 13 回 グループ活動 6: 第 7 章のプリントの検討と発表 第 14 回 第 7 章の訳の訂正 第 15 回 まとめ (プレゼン: パワーポイントを使って発表)			
授業外学習 (予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意したプリント			
成績評価の方法	予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (60%), プレゼンテーション (40%)			

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応		質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕	選択必修
				〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学） 【概要】アダプテーション映画の魅力を理解する授業です。取り上げる作品は、小泉堯史監督『博士の愛した数式』、黒澤明監督『乱』、アン・リー監督『いつか晴れた日に』、ジョン・マッデン監督『恋におちたシェイクスピア』の4作品です。授業は作品に関するディスカッションおよびプレゼンテーションが中心です。まず、学生の視点でその作品の「見どころ」「監督の主張」等についてディスカッションし、その作品の魅力を共有します。その上で、文学的視点からそれぞれの映画の鑑賞の仕方を学習します。最初の2本は映画作品の基となった小説（同名作品）および劇（『リア王』）と比較して相違点を探り、「アダプテーション映画」の魅力を考察します。あとの2本は映画に用いられた英詩に着目して文学的な視点から映画を考察します。もちろん、ディスカッションした作品については、自らの考えをまとめてプレゼン（約5分）してもらいます。 【到達目標】アダプテーション映画の魅力を理解する。文学的視点から映画を鑑賞する力を身に付ける。プレゼンをとおして自らの考えを発信できる力を身に付け、同時に他の学生のプレゼンを聴いて質問できる力を養う（発信力とディスカッション力）。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小川洋子『博士の愛した数式』 新潮文庫 (2)			
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション 第2回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（1） 第3回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（2） 第4回 プレゼンテーション 第5回 『乱』に関するディスカッション（1） 第6回 『乱』に関するディスカッション（2） 第7回 プレゼンテーション 第8回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（1） 第9回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（2） 第10回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（3） 第11回 研究と発表：映画『いつか晴れた日に』とソネット116番（1） 第12回 研究と発表：映画『いつか晴れた日に』とソネット116番（2） 第13回 研究と発表：映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット18番（1） 第14回 研究と発表：映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット18番（2） 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	ディスカッションの準備としてスクリプトを読む（4回）、プレゼンのためのパワーポイント作り（3回）			
成績評価の方法	授業への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）			

授業科目	基礎演習Ⅱ		担当者	Jorge Garcia Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	〔履修年次〕 1 年	授業外対応		By coming to my office or by email
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕	選択必修
				〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】Analysis of American pop culture in relation to that of Japan. 【概要】In this class we will discuss different topics related to American popular culture and we will compare it with that of Japan. We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures. 【到達目標】The students will understand the main points of American popular culture and its differences with that of Japan.			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher. (2)			
授業スケジュール	第1回 Introduction to the course (discussion and debate hints). 第2回 Brief introduction to American cultural values. 第3回 American music and its message. 第4回 Discussion: J-pop and American Pop. A comparison. 第5回 American characters. Are they bearers of the American cultural values? 第6回 Discussion: From Mickey Mouse to Doraemon. The popular characters and their differences. 第7回 Hollywood: a factory of “dreams”. 第8回 Discussion: Hayao Miyazaki and Walt Disney: two master ways of constructing popular legends. 第9回 The Hamburger Country. 第10回 Discussion: The influence of American “fast food” in Japan and other Asian countries. 第11回 We live in a video game world. 第12回 Discussion: Japanese games or American games? 第13回 US: The King of Sports. 第14回 Discussion: A Globalized spectacle beyond sports. From the NBA to the Super Bowl. 第15回 Course review.			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class attendance (30%); participation in class (30%); Final reports (40%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.			

授業科目	英米文学演習	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 選択必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】「アダプテーション理論」の実践と報告 【概 要】前半の5回は『クリスマス・キャロル』の小説と映画を用いて学生に「アダプテーション理論」を実践してもらい、結果報告を求めます。その後の5回は先輩たちが取り組んだ卒業論文を取り上げて、「アダプテーション理論」に基づく作成の仕方を学習します。後半の5回は各自で取り組みたい題材を見つけて、卒業研究の骨格を研究していきます。 【到達目標】「アダプテーションの理論」を実践し、文学的な視点から映画の良さと魅力を理解する。「アダプテーション理論」に基づく卒業論文の土台作りをする。		
(1)テキスト	(1)	プリント	
(2)参考文献	(2)	随時紹介	
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（1） 第2回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（2） 第3回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（3） 第4回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（4） 第5回 取り組みの実践報告 第6回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習（1） 第7回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習（2） 第8回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習（3） 第9回 先輩たちの卒業論文を用いた「アダプテーション理論」の学習（4） 第10回 先輩たちの卒業論文から「アダプテーション理論」について学んだことを報告 第11回 各自の取り組みによる実践（1） 第12回 前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（2） 第13回 前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（3） 第14回 前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（4） 第15回 まとめ（各自の取り組みの実践報告）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、報告のためのパワーポイント作り（3回）		
成績評価の方法	授業への取り組み（60%）、実践報告（プレゼンテーション）（40%）		

授業科目	英米文学演習	担当者	Jorge García Arroyo（ガルシア・アロヨ ホルヘ）
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修／選択〕 選択必修
			〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 Analysis of Herman Melville and Ernest Hemingway's main works. 【概要】 Through texts taken from Melville's and Hemingway's most important works, we will analyze the vision that these authors had on topics such as slavery, imperialism, war, religion and other cultural issues, etc. in relation to the United States. In addition we will also study how these authors related the United States with Europe (especially the case of Spain). 【到達目標】 The understanding of these authors' vision about important aspects of American culture and society of the nineteenth and twentieth centuries and their relationship or image regarding Europe.		
(1)テキスト	(1)	All materials will be provided by the teacher	
(2)参考文献	(2)		
授業スケジュール	第1回 Introduction to the course (discussion and debate hints). 第2回 Brief introduction to 19 th Century American Literature. Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes. 第3回 TEXT 1 (imperialism). Selection of brief texts from <i>Moby-Dick; or, the Whale</i> , and "Benito Cereno". Reading of the texts. 第4回 TEXT 1. Discussion: Melville's vision on imperialism (in relation with Europe. The Spanish case). 第5回 TEXT 2 (slavery). Selection of some texts from "Benito Cereno" and <i>Typee</i> . Reading of the texts. 第6回 TEXT 2. Discussion: Melville and the slavery problem (in relation to the Spanish slavery system). 第7回 TEXT 3 (religion). Selection of brief texts from <i>Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale</i> ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts. 第8回 TEXT 3. Discussion: Melville and religion (The Spanish Auto-da-fé). 第9回 Melville's review and final discussion (conclusion). 第10回 Brief introduction to 20 th century American literature. Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes. 第11回 TEXT 4. (The new women). Text from <i>The Sun also Rises</i> . Reading of the text. 第12回 TEXT 4. Discussion: Hemingway, new women and Spanish "Fiesta". 第13回 TEXT 5 (war). Selection of brief texts from <i>Death in the Afternoon</i> and <i>For Whom the Bell Tolls</i> . Reading of the texts. 第14回 TEXT 5. Discussion: Hemingway's vision on war and death (the corridas and The Spanish Civil War, 1936-1939). 第15回 Hemingway final discussion (conclusion). Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class Assistance (25%); Class participation (30%); Final presentation (45%)		
実務経験について	I am specialized in 19 th and 20 th centuries American literature		

授業科目	イギリス事情		担当者	ジョン・トレマーコ John Tremarco		
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択
					〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional 【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component. 【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials provided by the professor (2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)					
授業スケジュール	第 1 回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明 第 2 回 Choosing the Project theme 第 3 回 ~ Planning and implementation of Project 第 13 回 第 14 回 Final Presentation 第 15 回 Course Review					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。					
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40 %＋最終テスト 60 %の合計					

授業科目	アメリカ事情		担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)		
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	By coming to my office or by email.		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択 (注)
					〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】 American History; American Cultural History. 【概要】 In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit. 【到達目標】 The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be provided by the teacher (2)					
授業スケジュール	第 1 回 Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1. 第 2 回 Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion. 第 3 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries) 第 4 回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion. 第 5 回 Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny. 第 6 回 Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion. 第 7 回 Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts). 第 8 回 Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion. 第 9 回 Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics. 第 10 回 Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion. 第 11 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts). 第 12 回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video). Unit 5 discussion. 第 13 回 Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11th (video). 第 14 回 Unit 7 discussion. 第 15 回 Course review.					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	In-class discussions (40%); Final report (60%).					
実務経験について	I am specialized in world history, specially from 16 th to 18 th centuries.					

(注) 教職必修

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ 【概要】15 世紀後半から 19 世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。 【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる一起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013 年) (2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995 年)			
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1) 第 3 回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2) 第 4 回 近代世界と大西洋システム (1) 第 5 回 近代世界と大西洋システム (2) 第 6 回 近代世界と大西洋システム (3) 第 7 回 大西洋奴隷貿易 (1): ルネサンスと地理上の発見 第 8 回 大西洋奴隷貿易 (2): 海洋国家オランダ 第 9 回 大西洋奴隷貿易 (3): 奴隷と砂糖をめぐる政治 第 10 回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化 第 11 回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」 第 12 回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」 第 13 回 資本主義世界と奴隷制: 地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動 第 14 回 資本主義世界と奴隷制: ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐 第 15 回 まとめ: 砂糖と紅茶—ティータイム儀礼化に内包された歴史			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、発表 (30%)、最終レポート (50%)			

授業科目	講読演習Ⅲ		担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化 【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものの見方を学ぶ。また英文を正確に読解する方法を実践的に学ぶ。輪読形式を取るので予習は必須である。 【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫 編註 (松柏社、1994 年) (2) 授業で随時紹介します。			
授業スケジュール	第 1 回 イントロダクション 第 2 回 Ways of looking at pictures (1): フレーズ・リーディングとは1 第 3 回 Ways of looking at pictures (2): フレーズ・リーディングとは2 第 4 回 History and mythology (1): フレーズ・リーディングの実践1 第 5 回 History and mythology (2): フレーズ・リーディングの実践2 第 6 回 Religious images (1): フレーズ・リーディングの実践3 第 7 回 Religious images (2): フレーズ・リーディングの実践4 第 8 回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1): フレーズ・リーディングの実践5 第 9 回 An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2): フレーズ・リーディングの実践6 第 10 回 Hidden Meaning (1): フレーズ・リーディングの実践7 第 11 回 Hidden Meaning (2): フレーズ・リーディングの実践8 第 12 回 Quality (1): フレーズ・リーディングの実践9 第 13 回 Quality (2): フレーズ・リーディングの実践10 第 14 回 Tradition: フレーズ・リーディングの実践11 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度 (60%)、筆記試験 (40%)			

授業科目	基礎演習Ⅲ	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	適宜対応（要予約）
		〔必修／選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】比較文学・比較文化 【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。 【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』		
授業スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨン 第 2 回 発表と討論：多文化主義的家族像（1） 第 3 回 発表と討論：多文化主義的家族像（2） 第 4 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1） 第 5 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2） 第 6 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1） 第 7 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2） 第 8 回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（1） 第 9 回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖（2） 第10回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1） 第11回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2） 第12回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1） 第13回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2） 第14回 発表と討論：表象とその臨界（1） 第15回 発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	比較文化演習	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	適宜対応（要予約）
		〔必修／選択〕	選択必修 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触 【概要】二つの言語と文化が真つ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。 【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会 左記以外にも授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1 回 インTRODクシヨン 第 2 回 英和辞典活用法：抽象語を翻訳する 第 3 回 入試英語とは何か 第 4 回 英語の女言葉：ジェンダーと敬語 第 5 回 英英辞典活用法：歴史的テキストを翻訳する 第 6 回 行間の＜傾向＞を読みとる 第 7 回 正しい翻訳とは 第 8 回 小説の翻訳：日本語の得意技 第 9 回 論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い 第10回 漢文訓読と英文解釈 第11回 直訳から「超訳」へ 第12回 映し合う二つのテキスト：英訳された『雪国』 第13回 哲学の言葉の翻訳 第14回 翻訳の記号論：虚構としての言語 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%）		

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹			
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	適宜対応（要予約）			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。						
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。						
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。						
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2 回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3 回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4 回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5 回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6 回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7 回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8 回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9 回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10 回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11 回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第12 回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第13 回 発表準備 第14 回 学生による発表 第15 回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。						
成績評価の方法	授業への参加度：30％、発表：30％、レポート：40％						

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修／選択〕	選択
				〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。			
(1)テキスト	(1)	プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2)	授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明		
	第 2 回	音声学・音韻論（1）：調音音声学、子音・母音		
	第 3 回	音声学・音韻論（2）：モーラ、音節①		
	第 4 回	音声学・音韻論（3）：モーラ、音節②		
	第 5 回	音声学・音韻論（4）：連濁、枝分かれ制約		
	第 6 回	形態論（1）：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み		
	第 7 回	形態論（2）：新語、流行語		
	第 8 回	意味論（1）：単語の意味		
	第 9 回	意味論（2）：類義語と対義語		
	第10 回	語用論（1）：発話行為論①		
	第11 回	語用論（2）：発話行為論②		
	第12 回	語用論（3）：発話機能と語学教育		
	第13 回	言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差		
	第14 回	これまでの復習		
	第15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50％、期末試験：50％			

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也			
	〔履修年次〕	2 年 (注)	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言）について概観する。 【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房					
	(2)	授業中に紹介します。					
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。					
	第 2 回	現代日本語の音声と音韻 1：音声と音韻、音声器官、音声記号					
	第 3 回	現代日本語の音声と音韻 2：日本語の母音、母音の無声化、促音化					
	第 4 回	現代日本語の音声と音韻 3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動					
	第 5 回	現代日本語の音声と音韻 4：音素と異音、拍と音節、特殊音素					
	第 6 回	現代日本語の音声と音韻 5：アクセント、イントネーション					
	第 7 回	文字・表記：日本語の表記の特色、漢字の構造・音と訓・送り仮名、国語施策					
	第 8 回	現代日本語の語彙と意味 1：語彙、語彙量、語種					
	第 9 回	現代日本語の語彙と意味 2：語構成、語の意味、原義と転義					
	第 10 回	現代日本語の文法 1：形態論と統語論、文の分類、主語と述語、主題					
	第 11 回	現代日本語の文法 2：学校文法とその限界、動詞の活用、自動詞・他動詞					
	第 12 回	現代日本語の文法 3：ヴォイス、テンス、アスペクト					
	第 13 回	現代日本語の文法 4：モダリティ、複文、授受表現					
	第 14 回	現代日本語の待遇表現：待遇行動、待遇表現の種類、敬語					
	第 15 回	現代日本語の方言：言語変種、社会方言と地域方言、言語変化					
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。						
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%）、小テストの成績及び授業での発言内容（30%）						
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。						

(注) 日本語日本文学専攻では、1 年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2 年次 選択科目。

なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本文学史Ⅰ		担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕	1,2 年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2 単位
			〔必修／選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義
テーマ及び概要	【テーマ】上代から中古までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】日本文学史・古典Ⅰは上代（奈良時代以前）から中古（平安時代）の和歌史・物語史までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】上代から中古に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。			
(1)テキスト	(1)	小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫		
(2)参考文献	(2)	吉田孝『飛鳥・奈良時代』岩波ジュニア新書、保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書		
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：文学の発生、文学史の区分		
	第 2 回	上代の文学その 1：古代概観、古事記 1		
	第 3 回	上代の文学その 2：概観、古事記 2		
	第 4 回	上代の文学その 3：日本書紀、風土記		
	第 5 回	上代の文学その 4：万葉集 1		
	第 6 回	上代の文学その 5：万葉集 2		
	第 7 回	上代の文学その 6：万葉集 3		
	第 8 回	上代の文学その 7：上代の漢詩、説話		
	第 9 回	中古の文学その 1：概観 中世第 1 期 漢詩文と和歌 1		
	第 10 回	中古の文学その 2：漢詩文と和歌 2 古今集		
	第 11 回	中古の文学その 3：古今集 2		
	第 12 回	中古の文学その 4：散文の発達 1		
	第 13 回	中古の文学その 5：散文の発達 2		
	第 14 回	中古の文学その 6：白氏文集の影響		
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。			
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%			

授業科目	日本文学史Ⅱ	担当者	木戸 裕子
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	オフィスアワーに準じる
		〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 中古から中世までの文学史を各時代の社会的・文化的背景を踏まえて概観する。 【概要】 日本文学史・古典Ⅱは中古（平安時代）の和歌史・物語史から中世（鎌倉・室町時代）文学までを対象とする。テキストに従って、ジャンルごとに解説していくが、高校の授業であまり触れることのない作品などには、できるかぎり実際に読み、具体的に理解できるようにしたい。教員採用試験受験者、四年制大学編入学希望者はテキスト全体に目を通しておかれたい。 【到達目標】 中古から中世に至る文学史の流れを理解し、文学史的知識を身につける。各ジャンルの特徴を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小西甚一『日本文学史』講談社学術文庫 (2) 保立道久『平安時代』岩波ジュニア新書、五味文彦『武士の時代』岩波ジュニア新書		
授業スケジュール	第 1 回 中古の文学その 1：拾遺和歌集とその時代 第 2 回 中古の文学その 2：女性と文学 日記 第 3 回 中古の文学その 3：枕草子 第 4 回 中古の文学その 4：源氏物語 1 第 5 回 中古の文学その 5：源氏物語 2 第 6 回 中古の文学その 6：和歌と歌壇 第 7 回 中古の文学その 7：院政期の散文 第 8 回 中古の文学その 8：歌謡と芸能 第 9 回 中世の文学その 1：中世第 2 期 歌壇の統合と分裂 第 10 回 中世の文学その 2：漢詩文 第 11 回 中世の文学その 3：新しい散文 軍記 第 12 回 中世の文学その 4：随筆と物語 第 13 回 中世の文学その 5：芸能 第 14 回 中世の文学その 6：連歌 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に紹介した作品を読む。 その他授業中に指示する。		
成績評価の方法	毎回の感想（ミニレポート）30% 筆記試験 70%		

授業科目	日本語教育概論	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2 年（注） 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応（要予約）
		〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】 ・日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2 回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第 3 回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4 回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5 回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6 回 教材分析 第 7 回 教授法①：直接法 オーディオオリジナルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8 回 教授法②：授業見学 第 9 回 教授法③：授業見学の振り返り 第 10 回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第 11 回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第 12 回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第 13 回 フォリナートークとやさしい日本語 第 14 回 模擬授業の準備 第 15 回 模擬授業の実施、全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。		
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%、期末レポート：50%		

（注）日本語日本文学専攻は 1 年、英語英文学専攻は 2 年

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	〔履修年次〕 2 年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 WTO について学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える 【概要】 現在の世界は国境によって 193 の国に分かれている。しかし、WTO によって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTO は第 2 次世界大戦の反省に基づいて生まれた GATT を前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。 【到達目標】 第 2 次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省して GATT が創設されたのか、自由で平和な世界に向かう WTO の意義と限界を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 野村俊郎『トヨタの新興国車 IMV』および『トヨタの新興国適応』文眞堂		
授業スケジュール	第 1 回 テーマ説明：「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか 第 2 回 戦争と冷戦を超えて～WTO は何故うまれたのか～ 第 3 回 WTO の概要 第 4 回 一般的最恵国待遇 第 5 回 内国民待遇 第 6 回 数量制限禁止 第 7 回 経済制裁を WTO は禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか 第 8 回 交渉に時間のかかる WTO を補充する地域統合 第 9 回 EU① 第 10 回 EU② 第 11 回 EU③ 第 12 回 AFTA と AEC 第 13 回 メルコスール 第 14 回 TPP 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 2 年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応
		〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。 【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない (2) 多賀秀敏編『平和学から見る世界』（成文堂、2020 年）		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回 国際関係論の基礎 1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回 国際関係論の基礎 2：行為体と争点の多様化 第 4 回 国際関係のなりたち 1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回 国際関係のなりたち 2：アジアにおける冷戦の拡大 1 第 6 回 国際関係のなりたち 3：アジアにおける冷戦の拡大 2 第 7 回 国際関係のなりたち 4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8 回 国際関係のなりたち 5：大国の支配とナショナリズム 第 9 回 国際関係のなりたち 6：冷戦後の世界秩序 第 10 回 国際社会における諸問題 1：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回 国際社会における諸問題 2：貧困と開発 第 12 回 国際社会における諸問題 3：国境を越える諸問題 第 13 回 国際社会における諸問題 4：グローバルガバナンス（1） 第 14 回 国際社会における諸問題 5：グローバルガバナンス（2） 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (100%) によって評価する。		

授業科目	検定対策講座Ⅱ		担当者	土持 かおり
	〔履修年次〕 1 年		授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、TOEIC の各パートの攻略法を学び、演習を通して問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力を養成していくことです。 【概要】 TOEIC で測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すに TOEIC で求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEIC の学習に興味のある人は、この授業で一緒にがんばっていきましょう！（授業は毎回、LL 教室で行います。） 【到達目標】 TOEIC を受験し、550 点以上を取ることを目標とします。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂 (2) 参考文献は授業時に随時紹介します。			
授業スケジュール	第 1 回 Preliminary Lesson – TOEIC とは？/ 授業内容と進め方 / Pre-TOEIC Test にチャレンジ！ 第 2 回 Part 1 の攻略法 および問題演習 / 小テスト 第 3 回 Part 2 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト 第 4 回 Part 2 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト 第 5 回 Part 3 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト 第 6 回 Part 3 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト 第 7 回 Part 5 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト 第 8 回 Part 5 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト 第 9 回 Part 6 の攻略法および問題演習 / 小テスト 第 10 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト 第 11 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (2) / 小テスト 第 12 回 Part 7 の攻略法および問題演習 (3) / 小テスト 第 13 回 Part 4 の攻略法および問題演習 (1) / 小テスト 第 14 回 Part 4 の攻略法および問題演習 (2) 第 15 回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	小テストのための語彙学習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト			
成績評価の方法	復習のための小テスト (30%) + 各パートのミニテストの提出 (30%) + 定期試験 (40%)			
実務経験について	外語学院で英検および TOEFL の資格対策の講師経験有り。授業では TOEIC に必要な英語力の養成に努めます。			

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2 年		授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択必修	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ、「課題探求・解決能力」を育成する。 【概 要】「基礎演習Ⅱ」および「英米文学演習」から学んだことを応用して各人がテーマを設定し、研究を進めることとします。担当者は助言と指導を行い、論文の完成を補助します。 ＊卒業研究論文は日本語で作成しても構いません。この場合、350 語程度の英語の要約（summary）を添付してもらいます。勿論、英語での作成が望ましいと思っています。 【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 随時プリント (2) 随時紹介			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション（卒業論文作成のスケジュール等の確認等） 第 2 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（1） 第 3 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（2） 第 4 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（3） 第 5 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（4） 第 6 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（5） 第 7 回 中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス 第 8 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（6） 第 9 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（7） 第 10 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（8） 第 11 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（9） 第 12 回 個別指導：提出論文の添削・推敲（10） 第 13 回 英文サマリーの作成指導 第 14 回 提出前の最終指導（レイアウト、目次、参考文献などの確認、英語での summary の確認） 第 15 回 プレゼンテーションのためのパワーポイント作成			
授業外学習(予習・復習)	論文を書き始めたら、担当者が指導・助言ができるように、毎回プリントの準備			
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（60%）、授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション（10%）			

授業科目	卒業研究		担当者	遠峯 伸一郎				
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	講義終了時、適宜（要予約）				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】卒業研究の執筆を通し、基礎演習Ⅰ、英語学演習での研究成果をまとめる。 【概要】基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。 【到達目標】卒業研究を完成させる。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし。 (2) 浜田麻里ほか(1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』、くろしお出版、東京。その他随時紹介する。							
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 個別指導(1) 第 3 回 個別指導(2) 第 4 回 卒業研究テーマについての中間発表 第 5 回 個別指導(3) 第 6 回 個別指導(4) 第 7 回 先行研究と資料についての中間発表(1) 第 8 回 先行研究と資料についての中間発表(2) 第 9 回 個別指導(5) 第 10 回 個別指導(6) 第 11 回 考察についての中間発表 第 12 回 個別指導(7) 第 13 回 個別指導(8) 第 14 回 英文サマリーの作成 第 15 回 プレゼンテーション資料の作成							
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 5 時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み (10%) + 卒業研究 (90%)							

授業科目	卒業研究		担当者	石井 英里子			
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択必修	〔授業形態〕
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究し、卒業研究を完成させる。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 適宜紹介する。						
授業スケジュール	第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス、夏休みの報告、卒業研究 first draft 提出 第 2 回 研究報告 1 第 3 回 研究報告 2 第 4 回 研究報告 3 第 5 回 研究報告 4 第 6 回 研究報告 5 第 7 回 研究報告 6 第 8 回 研究報告 7 第 9 回 研究報告 8、卒業研究発表原稿 first draft 提出 第 10 回 卒業研究発表会の資料作成 1、 第 11 回 卒業研究発表会の資料作成 2 第 12 回 卒業研究発表の練習 1 第 13 回 卒業研究発表の練習 2 第 14 回 卒業研究発表の練習 3 第 15 回 まとめと全体討論						
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。						
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60%で評価する。						

授業科目	卒業研究	担当者	小林 朋子	
	〔履修年次〕 2 年	授業外対応	適宜対応（要予約）	
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択必修	〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	【テーマ】比較文学・比較文化 【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。 【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。			
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テーマの確認と指導 第 3 回 研究論文執筆の指導：文献収集など 第 4 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1 第 5 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2 第 6 回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3 第 7 回 中間発表 1 第 8 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1 第 9 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2 第 10 回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3 第 11 回 中間発表 2 第 12 回 中間発表 3 第 13 回 中間発表 4 第 14 回 卒業研究発表について 第 15 回 まとめ及び卒業研究発表の練習			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への取り組み態度（30%）、卒業研究論文（70%）			

授業科目	卒業研究		担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)				
	〔履修年次〕	2 年	授業外対応					
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修／選択〕	選択必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	【テーマ】 In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper. 【概要】 Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation. 【到達目標】 To make the students able to write and present their graduation thesis.							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be provided by the teacher (2)							
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. 第 2 回 What is an academic research? 第 3 回 Research topic guidance (1) 第 4 回 Research topic guidance (2) 第 5 回 How a research is conducted ? (1) 第 6 回 How a research is conducted? (2) 第 7 回 Student research guidance (1) 第 8 回 Student research guidance (2) 第 9 回 Student research guidance (3) 第 10 回 Student presentation guidance (1) 第 11 回 Student presentation guidance (2) 第 12 回 Student presentation guidance (3) 第 13 回 Some hints on academic English. Preparation of presentation materials. 第 14 回 Presentation (1) 第 15 回 Presentation (2)							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Class attendance (25%); in-class activities (30%); Final presentation (45%)							
実務経験について	I have already taught this class once.							